## 八女すだれ

県伝統工芸品指定工程書

株式会社鹿田産業



## 八女すだれ 製造工程



1、竹材(丸竹)、もしくは八女産の竹ヒゴを仕入れする。



2、竹材(紋竹丸竹)は、手でヒゴ状に割る



3、ヒゴ材で仕入れた竹ヒゴは、節数を揃えながら、1枚の商品毎に長さに切る。



4、竹ヒゴの節の間隔を揃える



5、すだれ1枚分の竹ヒゴ(約1000本)を色合いを揃える。節で模様を作るための節数のバランスを揃えて選別する。



6、足踏み式の織機に1本づつヒゴを挿入する。 並状の節模様を織り出すため、ヒゴをずらしな がら表裏を交互に挿入する。



7、縦縁、天地縁の順に手作業で縁を四方に 8、房を取り付ける。 縫いつける

## 八女すだれ 製造工程



9、房を取り付ける



10、検品する



11、梱包し、出荷する



■入社当時のの昭和20年頃を語る渡辺テルミさん 地元の農家の方と共に工員10人弱ですだれを遅くなるま で編んでいたとの事。



12、完成品例 (**紋竹・久留米絣縁 八女すだれ**)

- ■弊社ショールームに展示している 昭和20年代のすだれ織機復元品(可動品) メーカー/三好製簾機 大阪市平野区
- ■弊社職人であり竹細工師でもある 永野国弘さん 当時のすだれ製造は、現在も変わりないことを語られる。

## 鹿田卯七商店・鹿田製簾所 時代の画像



〉大正10年頃に生産したすだれ



戦後昭和26年頃の創業の地で再建した工場・社屋





昭和26年頃の工場風景

昭和3年に品評会に出品した時の賞状 →